

## 平成 25 年度 第 2 回奈良県健康長寿文化づくり推進会議 議事要旨

日 時： 平成 26 年 3 月 3 日（月） 14:00～16:00

場 所： 奈良商工会議所 4 階 中ホール

出席者：

（委員） 穴吹宏樹、荒瀬周児、伊藤宏子、上田晴三 黒飛文子、藤尾庸子、  
榎野久春、松田和代（五十音順）

（オブザーバー） 江南政治

概 要：

（以下、主な意見・質問（→）事務局発言）

### （1）＜議題 1＞「平成 25 年度なら健康長寿基礎調査結果の概要について」

事務局より、資料 1「平成 25 年度 なら健康長寿基礎調査報告書(案)」のを説明する。

○この調査は過去 3 回実施されているが、調査票は同じであるのか。

→調査内容を毎年見直しているので、すべて同じということではない。

○回収率は最初の 2 回に比べ、24 年、25 年は回収率が上がっているが、なにか考えられる理由はあるのか。

→詳しくは不明であるが県民の方の健康意識が上がってきていることも考えられる。

○督促のはがきは、4 年ともされているのか。また、その督促は、対象者全員に送られているのか。

→毎年督促状は送っている。また、こちらで、どの方が調査票を出しておられるのかわからないので、対象者全員に対して、調査協力のお礼と、まだの方への再度お願いを合わせて記載している。

○この調査で地域差は、出てこないのか。例えば、地域や組織での活動に参加しているのかなどは、地域別に出すことはできないのか。もし、出すことができるのなら、教えていただきたい。

→この調査の目的として、重点健康指標については市町村別に出すこととなっている。

資料 3 をご覧いただくと、例えば 1 ページ目に日本型食生活実施率について、市町村別に実施率の高い順に載せさせていただいている。このように、重点的な指標を市町村別に毎年見ていくことを目的としている。抽出調査であるので、人口の少ない市町村では若干誤差は生じるが、傾向は見ることができると考えている。

○アンケートに答えていただく方は健康意識が高い人と思うが、この意識の高い人にこの調査の結果をどう返しているのか。

→従来から、調査結果については報告書を作成して県のホームページに掲載し、協力いただいた方への返しとさせていただいている。

- 調査時に結果はホームページに掲載することを、伝えられているのか。  
→調査依頼をするときに、昨年の調査結果はホームページに掲載している旨をお伝えしている。
- 自分が協力したアンケート結果がどうであったかも気になるので、結果はホームページに掲載することを伝えていただいたら、さらに意識があがると思う。
- 今説明いただいた調査結果は、私が住んでいる地域でも予想できる数値である。  
20歳代からの若い世代の人たちを、健康づくりに巻き込んでいけないことが、どこの市町村でも問題である。この結果を参考にして、これからの活動に活かしていきたいと考えている。20歳代のやせすぎやストレスを抱えている人の多いのにびっくりしている。
- 報告書の35ページについて、年度によりこれほど差がでるのは、なにか理由があると考えられているのか。問いかけの違いとはなかったのか。  
→シンプルな設問であり、今のところ原因がわからない。

## (2) <議題2> 「平成26年度 健康づくりと予防の推進に関するとりくみについて」

事務局より、資料2「健康づくりと予防の推進に関する各分野における取り組みについて」に基づき、主な指標の推移および25年度の取り組み、26年度の主な取り組みについて、分野別に説明。

また、参考資料4により「奈良健康ステーション」の説明と参考資料5により新しい介護予防・日常生活支援総合事業について説明。

- 穴吹委員より全国健康保険協会奈良支部医療費等の状況（平成24年度デセプト・健診データ）について説明。（資料 奈良支部医療費等の状況）  
資料については、3月17日以降に協会けんぽ奈良支部のホームページに掲載予定。  
ダウンロードできるので、必要であれば使用可。
- 昭和工業団地協議会では郡山保健所と食生活や歯の健康について、一緒に取り組みを行っている。そこで、奈良県民は野菜の取り方が少ないと聞き、野菜摂取に向けた取り組みとして、食生活セミナーを開催した。内容は血圧や体組成計で体の状態を知ってもらい、野菜のメニューや350gの野菜の具体的な量、食塩の量についても展示をし、来てもらった人に興味をもってもらうようなものとした。啓発活動は、まず、参加者が興味を持つようなセミナーなどを開催することが大切と思っている。これは、説明のあった健康ステーションと同じ考え方で、人をうまく巻き込むシナリオづくりが重要。  
→栄養・食生活の取り組みに「なら健康減塩食プロジェクト事業」があるが、ここで作成した減塩レシピや調理の工夫などを、どのように普及していくことで効果的かがあがり、使ってもらえるのかも合わせて検討していくこととしている。興味を持てるような仕掛けづくりを1年かけて検討し、県民の塩分摂取を減らしていきたいと考えている。
- 健康ステーションは大変興味深い取り組みであるが、栄養と一緒にしたら、もっと盛り上がるのではないか。活動量計とはどんなものか説明していただきたい。

- これまでの歩数計と違い、家事などの活動も歩数としてカウントし、中強度の活動を何分したかも計測できる。
- 五條病院などでも、イベントで血圧や骨密度など様々な健康チェックを行うと多くの人が集まる。単に啓発物を渡すだけでは効果は少ない。  
健康ステーションの費用はどうなっているのか。  
→健康機器の購入費用については県から出している。3月末までは橿原スポーツクラブにサポーターとして来ていただいている。わずかであるが、その人件費を出している。  
平成26年度からは、NPO等に業務委託する予定。
- ステーションに専門職の人は置かれぬのか。  
→専門職の方は人材の確保と費用面で難しい。専門職でなくても誰かそこにいるだけで皆さん計測にこられ、そこで健康談議をし、満足して帰っていかれるので、サポーターさんは一般の方でよいと考えている。
- 特定健診の受診率について、高い市町村については表彰などされていたが、低い市町村で受診率を上げようと頑張っていないところには何かペナルティを課したりはされないのか。  
減塩も大事だが、野菜の摂取に関して、これからは評価をすることも重要であるので、アンケート調査などを実施し、事業の事前事後の評価にも取り組んでいただきたい。栄養士会も協力させていただく。  
→受診率の低い市町村に対して、具体的なペナルティは考えていない。しかし、会議資料にもあるように、市町村別の順位を出すことで、一番のペナルティとなっていると考えている。
- 生駒市では健診時に減塩の味噌汁を提供している。実際に飲んでもらい、併せて資料により説明をしている。数字を具体的にどれくらいであるかを理解してもらうのは、大変難しいので、体験を通じ家庭の味に気づいてもらうように工夫している。好評で来年度も実施する。
- 斑鳩町では乳がんや子宮がん検診の時に、減塩の味噌汁やお総菜を提供している。90%の人が塩分濃度0.8%の味噌汁を薄いとは感じず、減塩への関心が浸透していると思っている。しかし、濃い味を好む人は、一人暮らしで市販のものを多く食べている人や高齢になって味覚が鈍くなってきた人などである。この人達には、できるだけ出汁をとることや調味料の量も具体的に示して、お話をしている。そうすると、始めは薄くて食べられなかった味も、半年すると食べられるようになったと言われる。  
減塩プロジェクトでは、是非県民が関心を持って取り組める方法を考えていただきたい。
- 資料2の特定健診の受診率は低いが、基礎調査の結果では低いとは言えないのではないのか。国民健康保険のデータと基礎調査との対象の違いはあるからかもしれないが、これを見るかぎり低くないのではないのか。  
→なら健康長寿基本計画の64ページに職場検診なども含めた健康診断の受診率を書いているが、これを見ても奈良県は全国的に低い状況にある。奈良県民は健康診断を受ける習慣づけができていないと理解している。

○協会けんぽ奈良支部から出していただいた資料で、10歳代の高脂血症等にかかる医療費の割合が大きく高くなっている理由は何かあるのか。

(穴吹委員より回答) この世代は、一番健康的であり他の年代に比べ、医療にかかっている人、つまり分母が少ないことが、高い割合となっているのではないか。いずれにしても、この年代の高脂血症で病院にかかっている人が多いのは事実である。

平成26年度から、データヘルス計画というのを始めるが、その中で奈良支部としては、このことが計画の一つのポイントとなってくると考えている。次の会議でも、情報提供させていただくので、議論していただければありがたい。

○健康ステーションは橿原だけでなく、いろいろなところでやっていただけたらありがたい。

以上